



<http://www.jaaso.or.jp/>

JAあそだより

平成28年8月

残暑お見舞い申し上げます

■今号16ページ 主な内容

- JA阿蘇第15回通常総代会を開催
 - 生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報
 - 青壮年部・女性部の活動、取り組み
- など話題満載!



2016
夏

VOL.88

▲ 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111 / FAX 0967-23-1088

西原村「白糸の滝」(平成27年撮影)

JA阿蘇「第15回通常総代会」開催

熊本地震による甚大な被害に
役員一丸となり組合員と共に復興を進める



JA阿蘇第15回通常総代会が6月24日、総代やJA阿蘇役員をはじめ管内自治体首長ら多数の来賓を迎え、高森町民体育館で開催されました。

開会にあたり原山寅雄組合長は「未だ経験したことのない地震により大災害が発生し、被害を受けられました組合員の皆様には心よりお見舞い申し上げます。地震により、建物・農地等に甚大な被害が及びましたことに対し、JA阿蘇といたしましても役員一丸となり、組合員の皆様と共に一歩一歩復興に向け進んでいく所存でございます」と挨拶。米賀祝辞、出席人員報告後、議長に岩本新一氏（小国町）を選任し、議事に移りました。

議事では、「第1号議案」平成27年度事業報告及び剰余金処分案について、「報告事項」平成27年度貸借対照表、損益計算書、注記表及び附属明細書について、「第2号議案」平成28年度事業計画及び関連事項について、「第3号議案」定款、定款附属書役員選任規程の変更について、「第4号議案」規約の変更について、「第5号議案」





農林漁業団体退職者連盟阿蘇支部は6月28日、阿蘇市で会員ら約55人が参加し第1回通常総会を開き、2016年度活動計画など全4議案を承認しました。井一男支部長は「受給者の生活安定を図る活動をはじめ、会員の加入促進・連盟組織の強化等を重点的に取り組んでいきたい」と挨拶。15年度慶祝



挨拶する井一男支部長

慶祝者19人(喜寿9人・米寿10人)を表彰
農林漁業団体退職者連盟阿蘇支部総会



者として喜寿の9人、米寿の10人に表彰状と記念品を贈りました。総会後は、県農林年金相談員の堀春美さんの講演が行われました。(写真上)当日出席した慶祝者の方々

6月10日、JA阿蘇中部新選果場で生産者やJA関係者ら約80人が参加し、夏秋トマト出荷式が行われました。4月14日と同16日の熊本地震により阿蘇地域も甚大な被害を受けましたが、トマト生産者への影響は南阿蘇では土砂崩れの発生、水脈の枯渇。阿蘇市で



「夏秋トマト」出荷式でのテープカット

震災を乗り越え初出荷
JA阿蘇「夏秋トマト」出荷式

は断層による地盤のずれ、圃場内での水の自噴などが起き、施設・栽培環境への被害も甚大で、地震発生が定植ピークと重なり、停電による灌水不足が多発し、圃場内の亀裂、南阿蘇村長野地区では土砂崩れにより3戸約50aでハウスが倒壊するなど、今でも作付けができない状況が続いています。

出荷式では、地震のさなかに定植し被災者でもある生産者が丹精込めた夏秋トマトが出荷されました。

トマト生産協議会の山邊康弘会長は「被災による作業の遅れを引きずりながら、皆さん日々頑張っておられます。今後1玉でも多く、今からが旬の良いトマトを消費者に食べて頂くという思いで、トマトをしっかりと作って、熊本の

復興、JA阿蘇は元氣だぞという思いを絶やさずに頑張って、生産して頂きたい」と力強く語り、阿蘇地域世界農業遺産推進協議会委員長でJA阿蘇の原山寅雄組合長も「被災された中で、農家の方は大変苦労されていると思いますが、こうして無事出荷ができることに感謝致します」と述べました。

当日はくまモンや地元保育園児も参加し、園児らは「トマト大好き。早くトマト食べたい」と歓声をあげていました。JA阿蘇の夏秋トマトは生産者数217戸、栽培面積58haで、西日本一の生産量を誇り、県内及び九州・中国地方へ年間155万ケース(1ケース4kg)、6200tが11月末まで出荷される予定です。



写真右上=山邊会長、左上=原山組合長、写真中=新鮮なトマトに大喜びの園児、写真下=出荷式にはくまモンも参加

生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報

白水メロン部会の
「場外ホームランメロン」
今季も産地直送で有利販売

白水メロン部会では、5月中旬より期間・数量限定の「場外ホームランメロン」の出荷が始まりました。6月上旬の取材時、連日のように全国へと出荷されていきました。今年は果実肥大の終盤に熊本地震が発生しましたが、大きな影響はなく味と品質は例年に負けない出来となりました。「場外ホームランメロン」は、白水メロン部会が有利販売を行うために作ったオリジナル規格で、栽培方法は通常は1株に6個着果するのを3個に制限し、大玉で甘い「場外ホームランメロン」を作ることが可能となりました。大きいものでは1玉が2kgを超えるものもあり、固定客も年々増え、

県内はもちろんのこと東北地方まで贈答用がメインとして、大半が生産者から直送されました。

(写真上||南部地区で出荷が始まった「場外ホームランメロン」/6月6日頃撮影)

高森地区赤肉系メロン「レン」
7月上旬メロンリレー締めくく

高森メロン部会の赤肉系メロン「レン」が7月上旬、出荷終盤を迎えました。高森地区はJ A阿蘇管内でのメロンリレー販売の最後を締めくくる地区となっており、阿蘇産メロンのシーズン終了を市場に知らせる役割も担っていました。高森地区では他産地との違いを出すために赤肉系メロンの生産に力を入れ、市場評価は年々高まっています。今年是比较的順調に生育し、熊本地震の影響もあまり受けず、品質も良好で糖度も15度以上と例年に負けない仕上がりととなり、出荷は例年より早く5月中旬より始まりました。

南部地区のピーマン
定植時期遅らせ出荷数量をキープ

南部地区では、5月上旬に定植されたピーマンが順調に生育しました。同地区では昨年より晩霜被害を避けるため定植時期を7〜10日程度遅らせ、また部会の栽培基準で定植時期を揃えたことで、出荷ピークの数量を確保することも可能となりました。ピーマンの出荷形態も「バラ詰め」が中心でしたが、単価の底上げを目指し「袋詰め」出荷に昨年より取り組んでいます。

販売担当の藤吉友也職員は「今年も赤肉メロンの魅力を多くの方に味わって頂いた。今後とも安全・安心な高品質メロンを消費者に届けていきたい」と抱負を語っていました。(写真上||検査する担当職員。6月下旬の取材時、日量150ケース(1ケース5kg)が出荷されていました)

指導担当の堀畑善美職員は、「梅雨時には病気が多発することもあったので、雨の前後に徹底した防除を呼び掛けた」と話していました。2016年産は生産者42人(前年同)、作付面積5.5ha(同)となっています。(写真上||管理作業をする生産者/6月3日頃撮影)

ヒコムラサキを市場関係者にPR
手応えあった！試食宣伝会

南部なす部会は6月14日、特産「ヒコムラサキ」の試食宣伝会を熊本大同青果(株)で行いました。今回で4年目となる試食宣伝会は、量販店などと取り引きする仲卸業者にヒコムラサキの美味しさをPRすることで、新たな販路拡大へ繋げることが目的です。

当日は桐原勝幸部会長ら生産者2人が参加し、朝競りに合わせて試食宣伝会を行い、試食と同時に様々なレシピも紹介しました。試食した仲卸業者か



写真||好評だった試食宣伝会

生産各部会の生育・出荷・査定会等の情報

※前ページより続く

らは「生で食べても美味しかったが、いろんな調理方法があり、さらに美味しく食べることができた」と好意的な感想が聞かれました。

桐原部会長は「まずは買い手に味を知ってもらうことが大事。そして、その美味しさを小売店などへ繋げてもらい

**連携強化と高品質の確保で
目標販売高6000万円
南部なす部会**

南部なす部会は6月23日、2016年産出荷査定会を高森中央支所で開き、生産者ら約40人が参加しました。

本年産の出荷は5月下旬より始まっていますが、本格的な出荷を前に各等級や出荷要領の確認を行いました。

冒頭に桐原勝幸部会長が「震災に負けずに、安全・安心なヒゴムラサキを消費者に届け、同時に販売促進にも昨年以上に力を入れていきたい」と力強く挨拶しました。

当日は、販売促進や高品質維持の対策として、生産者と市場担当者との意見交換を密にして、選別の徹底や目慣らし会を定期的に行っていくことなどが話し合われました。また、査定会では市場関係者とJA販売担当者が一緒に等級の確認を行い、市場側

たい」と、今回の試食宣伝会に手応えを感じていました。販売担当の藤吉友也職員は「地元での知名度がまだまだ低いので、試食宣伝会等で美味しさを知ってもらい、同時にヒゴムラサキという名前を定着させていきたい」と今後の課題を話していました。

からは「売れる商品作りを意識して、毎日出荷してもらいたい」との要望がありました。

販売担当の藤吉友也職員は「販売先との情報交換を密にすることで、消



査定会に出席した生産者のみなさん

費地が求める品物をさらに提供できる産地にしたい」と意気込みを語っていました。

同部会では産地情報をいち早く届けるために、写真付きの生育状況に過去の出荷データや近況の等階級比率を記入した「産地概況報告書」を作成し、定期的に市場へ送信していくことにしています。

今年12月まで出荷計画を立てており、3万2600ケース（1ケース7kg）、6000万円の売り上げを予定しています。



挨拶する桐原部会長



JA職員による等級の確認

**目標販売額1億3300万円
「力ある産地づくり」目指す
白水ミニトマト部会**

白水ミニトマト部会は6月21日、2016年産出荷査定会を高森町で開き、生産者ら約50人が参加しました。

冒頭に後藤光栄部会長が「阿蘇の元気な姿を見せるためにも、生産者一丸となって消費者に届けていくので、市場担当者の皆さんも売り込みを強化してほしい」と挨拶しました。販売基本方針として、名実ともに夏秋ミニトマトのリーダー産地となるために、品質安定と生産量確保に努め「力のある産地づくり」を目標に掲げました。

今年震災の影響によりハウス損壊や地面の亀裂など約14aの作付に影響が出ていますが、担当の古澤勝己職員は「今後は灌水や追肥など樹勢維持に重点を置いた指導していきたい」と話していました。同部会は過去に県野菜振興協会より団体功労賞を受賞。長年にわたり高品質商品を出荷しており、市場より高い評価を得ています。

今年11月まで、出荷数量95万パック（1パック200g）、販売額1億3300万円を予定。作付概況は生産者19人（前年比106%）、作付面積4.6ha（同）となっています。

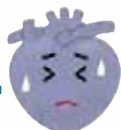
厚生連ニュース



8月 心筋梗塞について



心筋梗塞とは…



血管の中に血の塊(血栓)ができ、心臓の筋肉(心筋)に酸素や栄養を送る血管(冠動脈)がほとんど詰まることで血流が止まってしまう、心筋の一部が壊死してしまう状態のことです。全身へ血液を送ることができなくなるため、命に関わるとても怖い病気です。



心筋梗塞の症状は…



30分以上続く胸の痛み、冷や汗、吐き気、呼吸困難などがあります。

人によっては肩や背中、首などに痛みの放散を感じる場合もあります。

心筋梗塞を予防するために…



心筋梗塞にならないためには、動脈硬化の進行を予防することが大切です。日頃から次のようなことに気をつけましょう。

- 禁煙する
- 塩分・糖分・脂肪分を摂りすぎない
- バランスのよい食事を摂る
- 適度な運動をする
- ストレスを避け、規則正しい生活を送る
- 高血圧・糖尿病・脂質異常の早期発見を



※強い胸痛を感じたらすぐに医療機関を受診しましょう。



熊本県厚生連診療所

所長 粟津 雄一郎

TEL096 (328) 1083 FAX096 (328) 1258